

研究会概要

Overview of the study group

設立

昭和62年5月30日

対象分野

食品工業・農林畜産業・バイオテクノロジー、機械工業・エンジニアリング・新素材、流通・情報・ソフト産業など

協議研究事項

地域技術の課題に関し、産・学・官の共同研究を促進し、高度技術の地域産業への導入及び活用を図るため、下記について協議研究する。

- (1) 高度技術に関する情報交換に関する事項
- (2) 地域技術研究課題に関する事項
- (3) 共同研究開発促進に関する事項
- (4) その他高度技術の振興に関する事項

構成

会員

高度技術の開発研究を指向する企業等（八戸市、十和田市、三沢市、おいらせ町、東北町、六戸町、五戸町、階上町、南部町に事業所を有すること）

<会員：52社、委員：25団体31名、賛助会員：1名（令和5年4月1日現在）>

委員

高度技術に関する学識経験者及び行政機関の職員<任期2年間>（行政、商工団体、大学・高専、高等学校、公設試験研究機関、金融機関、弁理士など）

年会費

20,000円（会員のみ）

ご入会をご希望の方は下記に必要事項をご記入の上、事務局に送付して下さい。

本ページをコピーしたもので可。
または高度技術利用研究会ホームページからも届け出できます。



会員・委員共通 加入・変更・退会 届

高度技術利用研究会に係わる、標記について届出ます

※該当する届出項目を○で囲んでください。

企業・団体名	代表者	役職	氏名
住所 (〒 -)			
業種・業務内容 (簡潔に)			
URL			
担当者	所属部署	役職	氏名
	電話	FAX	
	e-mail		

変更の場合は企業・団体名および変更箇所のみを、退会の場合は企業・団体名のみご記入ください。

事務局（お問合せ先）

公益財団法人八戸地域高度技術振興センター
〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地一丁目4-43 八戸インテリジェントプラザ内
TEL: 0178-21-2131 FAX: 0178-21-2119

高度技術利用研究会



令和4年11月30日発行

HACHINOHE AREA

八戸地域を担う技術者集団 × 学官金連携による研究会

高度技術 利用研究会

「高度技術利用研究会」は、青森県の八戸地域において、ものづくり企業を中心とした多種多様な分野の企業、並びに大学・高専、高等学校、公設試験研究機関の研究者などで組織された産学官金連携の研究会です。地域産業のさまざまな技術課題に関して共同研究を促進し、高度技術の地域産業への導入及び活用を図るため昭和62年5月30日に設立されました。

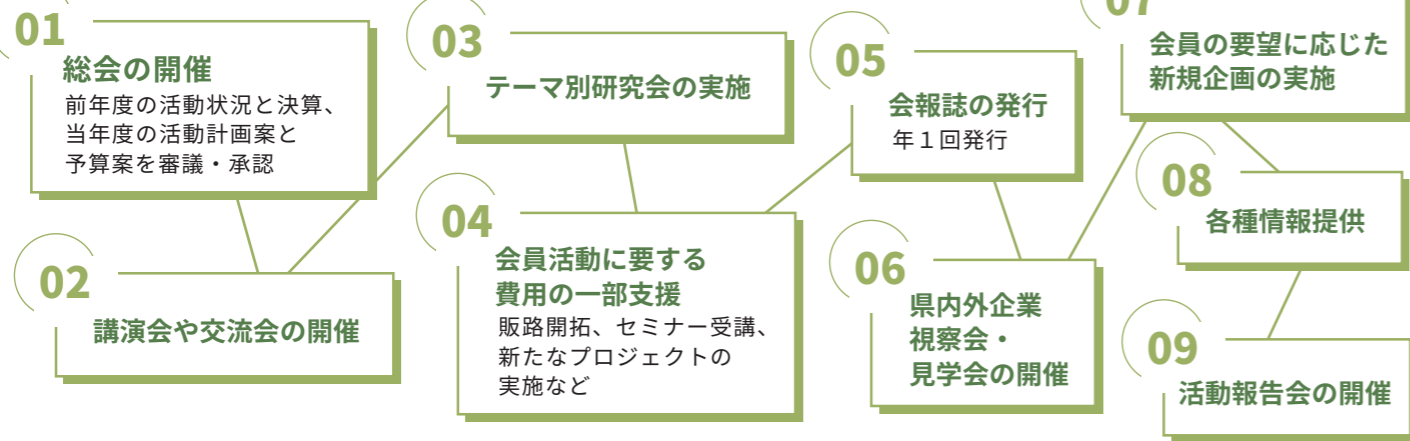
当研究会では講演会や交流会、県内外の企業視察会、展示会・商談会への出展、課題解決および新技術・新製品開発のための研究会や共同研究などを実施しています。

私どもは常に顧客の創造を重視し、イノベーションマインドをもって「八戸地域」の技術力を進化させながら地域産業の発展に貢献してまいります。



※八戸地域...ここでは八戸市、十和田市、三沢市、おいらせ町、東北町、六戸町、五戸町、階上町、南部町を指します。

活動内容 Activity content



講演会 交流会

Lecture
exchange
meeting



各分野より経営者・技術者・研究者等を招聘し、今の時代に踏まえておくべきポイントやチャンスの掴み方、成功へのアプローチ方法、課題解決への着目点などをテーマに毎年数回開催。講師を交えた交流の場も設けています。



≫ 近年の講演内容 (オンライン含む)

- ◆日本放送協会 (NHK) 制作局第2制作ユニット (社会)
エグゼクティブ・ディレクター 片岡利文氏 (東京都)
・プロフェッショナルに必要な〇〇力
- ◆つづく(株) 代表取締役 井領明広氏 (長野県上田市)
・地方中小・小規模企業におけるDX手法とその効果
- ◆(株)ウェストボックス 代表取締役 鈴木修一郎氏 (名古屋市)
・中小企業の脱炭素経営
- ◆(株)合食八戸工場 技術本部 主任 小澤祐介氏 (八戸市)
・弘前大学との共同研究による商品化実現のポイント
- ◆(株)由紀精密 代表取締役社長 大坪正人氏 (神奈川県茅ヶ崎市)
・自社の強みを武器に新事業進出に成功した「リアル下町ロケットの町工場」
- ◆その他過去に招聘した講師 (所属企業・団体名のみ掲載)
(株)南部美人、八戸酒造(株)、(株)IBUKI、(国研)産業技術総合研究所、(株)資生堂、八戸市立市民病院、八戸工業高等専門学校、(株)ブイ・アール・テクノセンター、(株)フォルテ、(株)富士フィルム、(株)龍角散など

県内外企業視察会・見学会

Company tour



商品 / 技術 / 研究開発、新産業創出・経営革新のヒントを模索するため、毎年県内外の企業視察会を実施しています。



医療機器事業等を手掛ける(株)高研 (山形県鶴岡工場) にて教育用医療モデルを体験する参加者 (令和元年)

≫ 近年の視察先 (オンライン)

- ◆(株)三松 (福岡県筑紫野市)
中小企業におけるDX
- ◆武藤工業(株) (神奈川県大和市)
金属熱処理品質の見える化
- ◆日本ツクリダス(株) (大阪府堺市)
小さな町工場でも実践できるDX・若い人が集まる町工場



視察先の鶴岡市での交流会の様子 (令和元年)

:: 過去の視察先 (いずれも現地視察)

- 【国内】(株)相田合同工場 (三条市)、オークマ(株) (愛知県)、京セラ(株) (京都市)、(株)クボタ (大阪市)、シチズンファインデバイス(株) (山梨県)、(株)武田金型製作所 (燕市)、(株)細尾 (京都市)、(株)ユウグレナ (横浜市) など
- 【海外】大韓民国、台湾の製造業・研究施設

テーマ別 研究会

Thematic
study
group



会員企業の課題解決のため会員自ら提案する研究会。産学官金等と連携しながらさまざまな活動を行っています。



現場のIT活用研究会 (通称:IT研)

現場の改善や生産性向上の手段のひとつであるIoT/AI、ロボットの導入等について、さまざまな視点から検討する研究会。

≫ これまでの主な活動



(地独) 青森県産業技術センター八戸工業研究所 (以下、八工研) が人とロボットが共に働く生産ライン構築の実証試験用として令和4年2月に「ロボット試験室」を開設。これを契機に「協働ロボット等見学説明会」を開催し6機種のロボットの機能や実用例などを紹介 (研究会は併催として実施)



デジタルに慣れていない事業者でも手軽に活用できる事例、並びに最新技術を紹介 (工場内の状況や設備、関連データ等を目の前に表現しながら遠隔地と同期を図り、ミーティングや商談も可能な「デジタルツイン」(写真)、遠隔医療なども期待される「テレポーテーション」など)



さまざまな分野におけるクラウドコンピューティングにおいて100件を超える実績を有する地元企業より、導入を検討する中小・小規模事業者の「わからない」の解きほぐし方や、はじめにやるべき点について事例を交えながら紹介

:: 過去に実施した研究会

- ◆八戸金属粉末研究会... 八戸市が世界に誇れる「金属粉末の製造技術」を活用した用途開発並びに地元企業参画を図った。
- ◆塗膜剥離研究会 in 八戸... 構造物解体工事における塗装剥離新工法のひとつ「IH(電磁誘導加熱)工法」の問題点を解決するための各種試験を八工研、八戸工業大学の支援により行った。
- ◆フルフラット横型プレス改良モデル研究会... 地域の金属加工業者が開発・製造する、誰でもどこでも多種多様な曲げ加工が可能な「フルフラット横型プレス」の強度を高めるため、八工研との共同研究により実施し商品化した。
- ◆八戸地域次世代ものづくり企業人材育成研究会... ものづくり企業に必要な知識やスキルを習得するセミナーについて企業同士が議論し、八戸で20コース以上を開催した (協力: (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構並びに地域支援機関)。
- ◆小水力利活用研究会... 企業の未利用資源活用を目的に、複数の地域企業と八戸工業高等専門学校との連携によりオリジナル小水力発電機を開発し、地域企業の敷地内に設置。工場用水を活用し非常用電源用として稼働させた。

ものづくり産業を語る研究会 (通称: 語る会)

「企業の目的は顧客の創造にある」という視点から毎回テーマを設定し、講師並びに学官金等関係者を交えた議論により、次へのステップのための新たな視点を見出しています。

≫ 近年の活動テーマ

- ◆新型コロナウイルス感染拡大を見据え——リモート会議で語る会
- ◆地域企業がカーボンニュートラルを進めていくための道筋とは
- ◆地域企業課題通のコーディネータによる今後を切り開くための糸口
- ◆AI/IoTやロボット導入による現場の「見える化」と生産性向上、技術/技能伝承の地域事例とともに
- ◆工場における最適な設備保全 (管理の実際、データ活用による可視化、コスト面からの考え方など)
- ◆「IoT開発支援棟」(地独) 青森県産業技術センター工業総合研究所) の紹介と地域企業へのIoT導入に向けた意見交換
- ◆コロナ禍でも過去最高水準の収益を実現した若手女性経営者による戦略 (県内外2社)
- ◆地域金融機関によるモノづくり企業に対する支援内容の紹介

【参考】「語る会」で「法改正に伴い溶接ヒューム等が特定化学物質に追加されたことによる、事業者における諸問題に特化した企画」の要望があり、八戸地域高度技術振興センターが「ものづくり産業を KATARU 会」として識者を招き、説明および意見交換の場を設けた (令和3年度)